



克己の精神を振起せよ

竹 軒 生

昔は顔淵仁を孔子に問ふ、孔子答へて曰く「己に克ちて禮に復るを仁と爲す」と顔淵更に其目を問ふ答へて曰く「非禮視る勿れ非禮聽く勿れ非禮言ふ勿れ非禮動く勿れ」と、今日道德の標準を云爲するもの或は快樂説を唱へ我は自我實現説を説き或は曰く何或は曰く何と其主張する所區々多様なりと雖も身を修め行を正しうするに最も適切緊要なるは未だ嘗て孔子の克己説に過ぐるものあらざるなり古來幾多の人士が身を立て道を行ひ名を後世に揚げ或は身を誤り家を失ひ國を滅し醜を千載に貽せし者何ぞ限あらん而して詮じ來れば能く己に克ち得たる己に克ち得ざりしとに由るのみ克己なる哉克己なる哉、克己は人をして大聖賢哲の矜域に進むるの案内者なり指導者なり之に反

して恣慾は人をして不肖、愚昧、惰落、放逸等不測の深淵に誘ふの惡鬼なり羅刹なり今回母校に發生せる不祥事は一人の邪癖なる心理作用によりて學校全体の体面を傷け校友六百の面目を汚濁せり其因る所を推究するに實に克己の精神を缺如せるに由らずんばならず己に其第一歩を誤り而して改るを知らず浸潤惑溺迷謬混亂遂に此極に至る豈畏れて慎まざるべけんや而して吾人は又今回の事件によりて隠れたる罪惡の途に隱るゝ能はず所謂隠れたるより顯なるはなく微なるより明かなるはなく天網恢恢疎にして漏さざる明白なる教訓を得て益々慎獨の忽せにすべからざるを悟れり吾人は今茲に既往を繰返すを好まず只此際吾人の希望して止まざるは校友各自克己の精神を旺盛にし視聽言動苟もせず小惡なりとも犯す事なく小善なりとも爲さざる事なく社會の疑惑

大正三年三月廿三日印刷
大正三年三月廿五日發行

〔定價三錢〕

長野縣西筑摩郡福嶋町四〇四番地
編纂兼發行人 安井正夫
上水内郡芦田村字中御所八十八番地
印刷者 田中彌助
長野市西后町乙廿一番地
印刷所 長野新聞社活版部
長野縣西筑摩郡福嶋町二八九番地
發行所 蘆澤書店

岐蘇林友

第五十三號目次

論 說、克己の精神を振起せよ 竹軒生
學 術、神社と森林 白井光太郎
通俗天氣豫報の話 宮川博士
波瀾に就て 牧野博士
臺灣北部に於ける思想樹に就て
淺野式合板に就て 大木洋
報、山林學校領り 大木洋
稽程一千日 山報
長野王國 生
柔佛王國 生
臺灣より 生
會員消息其他 生

神社と森林

理學博士

白井光太郎

神社に樹木を主とする事は和漢同一轍で上古は未だ建築術も開けず天神地祇を祀るに立派な社殿を立つると云ふ事も不可能である故其土地に適する立派に成長する樹木を植ゑて、森を作り、之に注連繩を張つて其内を神聖の場所として置いたものでは是が即ち神社である、關東では椎とか樺とか關西では樟などを植ゑたもので又一般には樅杉を神木としたものである、神社に社殿を作るは後世の事で大和の三輪社、信州諏訪社などは今尙神殿は無く拜殿のみで上古の風を傳へて居る位である、夫故社殿が大破せ

るとか、小さくて見苦しいとか云つて立派な神木巨樹老木のあるにも係らず之を伐り倒して之を他に合祀するといふは全く無意義の遺り方で神の觀念も神社の來歴も神道の何たるかをも知らざる者の爲る事である云はざるを得ない、つまり人民も官吏も神社の何たるかを知らず歴代の烈聖、我々の祖先が天下後世の爲に折角丹精を凝して育成した神社の神林、設定した形勝の神地否神社其物を子孫の我々が如何に文明開化が宜しきとして些の畏敬を表する事なく片端より之を伐滅するとは實に痛歎の至りに堪へぬ次第である

校兼公園の如きもので其場所々々の動植物の保存に必要なものであつて遠方へ移すべきもので無い一部落に一社は是非必要である、且神社は土地開拓の歴史を語るもので何も古き朝廷の歴史に見ねぬとか舊藩主が信仰せざりしとかを理由として廢合を行ふべき筈のものでは無い百姓は五穀を作るもので五穀の豐熟を祝ひ、天地の神恩を謝する爲に稻荷社とか水川社とか社名は何にせよ主意は農作の豐熟天地の神恩を謝する爲の物で村社であるとか無格社であるから存在を許可せぬなど云ふ理窟は無い譯である(中略)左に萬葉集にある社及神社をモリと訓せし歌數種を抜抄して此説終る事とする

社をモリと訓せし歌

神奈備乃伊波瀬乃社之喚子鳥痛莫鳴吾戀益不想乎想常云者眞鳥住卯名手乃社之神思將所知
神社をモリと訓せし歌
哭澤之神社爾三輪須惠雖禰祈我王者高日所知
眞鳥住卯名手乃社之神思將吾爾書付令服兒欲得

通俗天氣豫報の話

宮川 丑 作

予曩に郡及縣の教員養成所主任として前後二回岐蘇生活を味ひしよりいたく其の山川に懐かれ人情に親み寤寐にも忘れ能はざりしが、今回圖らずも三度び入蘇して當校諸先生の席末を汚すに至れり、素より不學菲才、加ふるに着任日尚淺く思想も材料も整頓せざれど編輯主任の求めに任せ思ひ浮べる儘を記して林友諸賢へ御挨拶の辭と爲さんと欲するなり、
夫れ宇宙は實に宏大無邊なり、自然は眞に偉大崇嚴なり、仰いで燦爛たる星界に没入し、俯して參差たる万象を凝視するもの誰か其の靈妙なるに驚駭せざらん、然りと雖徒らに之を神秘的に畏敬贊嘆して、其前に跪かんとするは、吾人の採らざる所なり、
カーラヘルは「科學者は唯合ひ言葉を用ふに過ぎず」と冷笑したるも、吾人は必や科る學の鍵に依て宇宙の秘庫を開く可き時の到來するあるを信するものなり、予も亦嘗て哲學に耽り今尙之を捨てずと雖、其の所謂「忍の皮を剝くに等しき者なる」を信するに至れり、近時新理想主義なる者を擔ぎ出して、科學萬能を排せんとする、ベルグソン、オイケン等の如きありと雖、吾人は其の弱者の聲なるを知るのみ、
氣象の如き、素と是れ自然科學の一端に過ぎずと雖、一事は万事なり、之に心を潜むる時は、趣味の津々たるものあるを覺ゆる

なり、然も「すの天氣は」と云ふ如き問題は別に特別の時間を要するにも非ず、途行く際にも浴みする時にも、將又ストープの廻に談笑する間にも、所謂行住座臥共に考へ得らるゝ事にして、觀察てふ事に注意を怠らざる者の、容易に爲し得らるゝ業なり題して通俗天氣豫報と云ふ、敢て學理に照し實驗に徴して、秩序ある記載を試みんとする者に非ず、只自己の狭き經驗と俚諺若くは傳説等に依りて雜駁なる事柄を陳列するに過ぎざるなり、

一、天候と虹霓

1、朝虹は雨
朝虹に河を越すな(俚諺)
朝日の子やつかり女につかり(俚諺)
虹、朝西に濟れば、崇朝其れ雨(詩經)
2、夕虹は晴
夕虹に傘を持つな(俚諺)
是れフランクリンの研究にかゝる、「天候は西より定まる」と云ふに一致する者にして如何に東の空が晴れ居るも西の曇り居る時は晴るゝ見込なく、東の空が如何に險惡なるも、西の晴るゝ時は快復疑なきものなり、

一、天候と朝夕の雲の色

1、夕焼(晚霞)は晴
秋の夕やけは霞を砥げ(俚諺)
2、朝焼(曙霞)は雨

朝やけは其日の洪水(俚諺)

一、天候と日月の暈
1、日暈
日暈雨にて(月暈は必ず風と知れ)
2、月暈
月暈は必ず風と知れ
月暈の圈の中に星現はるれば雨
一、天候と雲
1、雲山にたなびげば雨
2、霧足が揃へば霧るゝ兆
3、魚の鱗に似たる雲は雨
此他雲の形、色彩に依りて判断せらるゝ事多し、

一、天候と臭氣及煙

1、便所其他に特に臭氣を發するは天氣の變り
2、煙の家に籠る時は變る知らせ
3、線香、煙突などの煙が眞直に昇る時は霧れ、地に這ふ時は變り
氣壓の關係ならん、

一、天候と風

1、西と東の微風は變りなし
2、夏南風と冬北風變り
但し是れは地勢に關する事故、其土地に就て特に觀察を要す
一、天氣と濕氣
天候の變り目には濕氣を多く含むを以て

1、張り詰め置ける洋紙などの弛む時は
2、雨煙草などの濕る時も雨

一、天候と地震

五(八時)七(四時)が雨に、四(十時)ひでり、六(六時)八(二時)ならばいつも大風
傳説なれど信偽保し難し
一、天候と禽獸蟲魚
1、朝鶯に笠を着よ、夕鶯に笠をぬげ(俚諺)
2、室内に蜘蛛の這出る時雨の前兆
3、鳥などの家の附近に鳴き居る時は雨
4、蚯蚓(其實は蝮蛇)の鳴く時は霧れ
5、蟲類の出で騒ぐ時は變る徵
6、魚水面に浮び跳る時は霧れ

一、雜

1、朝雨は女の腕まくり(何程の事があらん意)
2、入浴の際、手の先などがほとび、白く皸のよる時は變り
3、辰、己まはりば雨天の節
辰で掬つて巳(箕)でまき下ろし、馬で跳ね上がる(辰己の頃は雨で霧るゝ意)
4、日本晴は雨天の前兆
5、大火事の後は雨
6、夕方子供の騒ぐ時は雨
7、山が常より遠く見ね、鐘などの音がいつもより遠く聞ゆる時は霧れ

今は昔、松代藩に六太夫と云へる貧しき農夫あり、天氣を下する事神の如かりき、事藩侯の知る所となり、召されて士班に列せ

らる、然るに夫以來は常に豫報を誤りしかば藩侯の怒に觸れて、終に放逐せられしと云ふ、こは六太夫の未だ食しかりし時は其垢染みたる禪の濕り加減にて判断したる者なるに一度抱へられて士班に列するや禪は云はずもがな總て其衣を更へたるを以て下するに由なかりしに由るとか、其事の信偽は知らざるも一度風雲に乗じて立身するや其昔困厄せし時の事を忘れ去る者、世に乏しからざる可ければ以て戒となす可きなり

波々迦は日本の特産植物

去る二月五日宮中神事に行はせられた齋田點定龜下の神事の御料たるべき波々迦帝は室林野管理局の手で日光御料林より採收せるウハミヅザクラを用ゐられたが古來學者間に疑問の植物として殆んど正體の知られ無かつた此波々迦の木に就て理科大學の牧野富太郎氏は次の如き趣味ある談話をせられた

▽龜下神事の御料

クラの名も生じ又夫から再轉してホンゴウザクラ、コンゴウザクラ等種々の異名が出たのである植物學の方から云ふと此木は薔薇科中山櫻や桃、梅などと同じくサクランブ、スグリ、スナと稱へられて居る

を帯び愈々成熟すると紫黒色となつて落つる京都の祇園では此實を鹽漬にして酒の肴に出すうである

臺灣北部に於ける思想樹の生長量及收穫量調査に就て

第一回卒業生 大 脇 又 衛 生母校を出で茲に九年其間何等なすなく徒らに恩師松田校長閣下外各先生より授

けられたる高賜に對して愧る所大なるに拘らず幸に恩師並に諸先輩の憐愍を得て聊か林業界に對し活動しつゝあるは竊かに感謝に堪へざる所なり今や我校は北は北海道の果より南は遠く新嘉坡に東は米國に西は朝鮮に至る世界各地に卒業生を送り而も其成績の見るべきもの多々なるは實にボンクラ探る處なき生も肩身の廣さを感じ眞に快心に堪へざるものなり今曲線を以て之等各地を連結せんか其内に含まる林野は幾千なるか之れ諸君が奮闘の地ならし共に母校發展の跡を示すものにあらずや

第三節 各地位に於ける年齢に對する平均樹高及連年生長

に及び東徑百十九度より全百廿二度十分の間に横はり南は米領ブイッピン群島と一羣帯水を巨て、相對し西は僅に九十哩を界して支那大陸に北は八重山沖繩の諸嶋を介して帝國本土と相對する點に在り

第二章 地位 地位判定の方法 第二節 地位の調査

第一章 總 說 第一節 萌芽林の調査 第二節 萌芽林の生長及收穫 第三節 人工植栽林(又は播種)と萌芽林との生長比較 第九章 思想樹と二三樹種の生長比較 第十章 結 論 附 臺灣赤松の調査

て山出しは一年生にて充分なるべく萌芽力頗る強く作業は容易なり(詳細は後に述ぶ尙送付しある造林法を参照せられたし) 第二節 收穫表の概論並に調査の目的 識者に對して收穫表を何たるやを説くは徒らに冗漫不用の文字にして所謂釋迦に説法の感なきにあらざるも之が順序として聊か其解説を試みるは敢て不當のことならざるを思ひ先づ本文に入らんとするに當り少しく其効用及性質を概説す 總て將來の收穫を窺定するは既往の收穫を知ることに最も必要なり即既往の收穫量明かならざれば將來を推測すべからず殊に我林業に於ては其必要なること言を俟たず所謂前價後價の兩式を現出せる所以なり此の將來を知る爲めに作られたる收穫表は吾人の大に多とする處にしてこれあらば如何なる作業に對しても完全に且つ更利に趣味を以て事に當るを得べし斯くの如く必要なる收穫表は必ず其具體的の性質として毎町歩の本數材積生長量と記載し尙之を樹種年齢作業方法及地位等級等の階級に煩つを常とす蓋し森林の收穫は樹齡によりて差違あるは勿論、地位の良否に關すること頗る大なり(別表地位別材積表参照)且つ取扱法の適否によりて大差あるは己に知る處なり即ち其土地に適したる樹種を植栽し適當なる施業法を採りたるものと其否らざるものとを比較せば明かに逕底あるを發見すべし

今收穫表の必要なる所以を擧ぐれば (a) 地位及林位の査定 (b) 幼林及無立木地の造林に對し將來の收入を定むるを得 (c) 生長量進行の状態を明示し得 (d) 最も利益ある輪伐齡を撰定するを得 (e) 法正の材積調査をなすを得 以上列記する事項は即ち收穫表の恩典にして特に現在の林況によりて將來の材積を豫知するに頗る利便を得ること之なり 斯くの如く收穫表は一方よりする時は殖林企業者若しくは林業家の指針となり座右の寶典なれども森林たるや必ずしも規則正しく生長し發育するものに非ずして氣候其他施業法等によりて其度を異にし收穫表も亦總て完全にして何れにも適合するものに非ず従て普通收穫表局部收穫表若し主伐收穫表間伐收穫表等ありて其字義の示す如く範圍の廣狭の意味を限定す然れども普通收穫表の主伐收穫表によりて其大體は之を察知し得べく之に局部の事情を斟酌する時は略近似的の價を求むるに難からず故に今回調査の目的も臺灣北部に於ける想思樹の普通收穫表を作りて其主伐收穫を求めんとするにありて局部の收穫は現今の状況にありては材料不足にして到底求め難きを以て普通收穫表を以て大體應用せんとす 尙今回の調査は只實地に應用すべき收穫表を得ることを根據とし其測樹學的研究若し

森林教學關係の如き繁雜なることは後日に譲りたれば之を數學的より推據すれば或は誤見あるは疑を容れざるも實地の參考を主としたるに付不十分ながらも補足し得るを信す 淺野式合板の光榮 △御料列車の天井板に採用せらるる 名古屋材木商同業組合員にして淺野木工場主たる淺野吉次郎氏が曩に其發明に係る淺野式合板の專賣特權を得之が成績の良好なることは夙に斯界一般の認むる所なるが事實同合板は強度の加熱其他如何なる場合に些の故障を來さざる點に於て優に外國品を凌駕し從來クルイ、チジレ等の缺點ある故を以て木理の美しきにも不拘捨て、顧みられざりし日本在來の雜木は總て立派なる建築材料と化し近來同合板の眞價は著しく世に發揮せられ需要又頓に激増して名聲海の内外に噴々たるに至れり隨て今秋、今上陛下御即位の大典を擧げさせらるる際には畏くも御料列車の天井板として同合板を用ゐらるるの光榮を擔ひ同工場にては既に椶ナリ全長六尺五寸幅四尺五寸てふ逸品を製作して上納せり又本月廿日より東京にて開催せらるべき大正博覽會に於ては當路者より特別の優遇を與へられ工業館内目振の場所に多大なる出品區域を供せらるる等今や本邦産業界の一異彩として迎られつゝあり 山林學校便り

立を見るは獨り本島のみならず他に類例少からざるべし故に二千尺以上の暖帯及温帯に及ぼすことあるも其大部は殆んど前記兩帶(熱暖帯)に其重きを置くも過誤なからん(他は省畧す、何んとなれば森林帯を論ずるものはあらざればなり) 藤て本嶋(蕃地は除外例)に於ける森林利用の状況を觀るに舊政府時代より専ら濫伐を事とし殆んど荒廢の極に達し毫も植林の念なき本嶋人の爲に滿目蕭條たる秃山兀峯を現出する所少からず延て今日に及べば地方住民等は日常の薪炭材にすら窮し或は牛糞を利用し雜草を燒燃して之を補ふの状態にあり 然るに茲に述べんとする想思樹は此間に立ちて彼等人民に向つて一條の命脈を與へ加へて荒敗せる林地をして復興せしめんとする唯一の樹種たり何んとなれば愛林思想に頭腦なく濫伐亂墾を旨として顧みざる彼等や本島人すら尙之を植栽し愛護する所以のもの他なし即ち (1) 如何なる瘠地にも堪へ他樹の如く甚しく立地の適否を撰ばずして生育す (2) 他に比して生長最も速なり (3) 薪炭材として最も優良なること (4) 豈科植物に屬するが故に理學的作用により土地を肥沃ならしむ (5) 如何なる造林方法にも適す 以上の如き特長を有するを以て到る所に薪

炭材或は防風林又は家園樹行道樹として生立し廣く愛用慎重せらるる所以なり 近時漸く植林事業の曙光を見るに至り樟樹は勿論「ゴム」「サイザル」等の樹草に至る迄漸次勃興の氣運に向ひ或は官行に或は民行に各所に之が實施を見るに至りたるは臺灣嶋のために將た我林業界の爲に慶賀に堪へざる所なり 殊に想思樹は益々其必要を感せられ植栽面積の擴張を現はし愈々發展の氣運を示せり此時に方り本島に於ける是等重要樹種の生長量及收穫の調査せられたるもの少きは頗る遺憾なりとし命を承け之が研究に従事し其檢定に當らんと有用樹種數種を撰み全嶋各地に於ける成績を調査せるもの即ち之れ然れども淺學非才加ふるに植栽後時日を経ざる今日なれば適當なる標準地木を得ることは難く希望に副ふもの尠く完全を期し難きは言を俟たず將來更に訂正加除の要あるべきも聊か參考に資すべく茲に林友の余白を借り貴重なる紙面に賢明なる諸兄の眼を勞するは慚愧に耐へざる處なるも以下秃筆菲文を草して諸官の一笑を買はんとすその誤れる所は幸に教訓の勞を取られんことを切望して止まざる所なり 第一節 想思樹の分布其他に就て 想思樹は豈科に屬し所謂アカシア屬の一種にして、其學名は *Acacia leucophthalma* と呼び(臺灣土名想思樹 シュンシア)即ち「ファイ

リツピン」地方に見る所の學名アカシアリチ (*Aerialia Richii*) と酷似するも最近の研究により全く別種なることを發表せられたり(但八重山群島に點在するものは本島種と同一なりと云ふ) 而して之が分布は其確言をなす能はざるも殆んど我臺灣の特有植物と云ふを得べく八重山沖繩にあるものは其區域極めて狭少なるを以て其野生の状況より見れば前言之誤らざるを信す最近督府金平技師の報告によれば南洋諸嶋にあるものは全く「スイリツピン」諸嶋にあるものと同一にして我が臺灣に存在するものと別種なりと云へり 而して其本嶋に於ける自生の状態を見るに内地に於ける松樹の如く各地の山野又は路傍に之を見るを得るも其熱帯植物たるや即ち北部に於ては海拔二千尺南部に於ては千尺以上の地に見ること稀なる點よりするも疑を容れざる處なり 其効用に就ては薪炭材以外尙材植稍重きに失するも堅緻なるを以て車輪用材器具用材として使用し得べく樹皮は單寧を含むを以て其用途の廣き推して知るべく殊に單寧の如きは鞣皮材料として重視せられ内地に於ける産額にては不足を告げ年々外國より輸入する額の大なる今日に於ては大に研究を要すべきこと、信す(陸軍省に於ける例参照) 造林法としては己に諸官の知る如くなるも播種、挿木(挿木は幾分活少着し歩合)にし

○今度に限つて學校使を書き勇氣がないといふのは先月廿四日に突發せる不詳事件があつた爲である詳しい事は新聞紙に盡されて居るから今更之を繰り返す必要は無い否々書くに忍びない事である只吾々は此出来事を天啓として一大猛省を發し一大革新を期圖をせねばならぬ、之は恐らく職員生徒を問はず學校全体が感悟した處であらうと思ふ

○廿四日午後一時安藤校長は職員生徒一同を講堂に集め今回の出来事に就て其顛末を語られた後、事の此に至れるは學校の不名誉不面目は云ふに及ばず延いては長野縣の中等教育の上に汚點を印し名譽ある教育國の名を汚したもので遺憾の極である、而して此に至らしめたる罪は固より校長始め職員員の負ふべき責任であるが斯くまで情落し斯くまで腐敗せる本源は其人にありと云はねばならない、學校に於ては出来うる限り訓戒もし取締を嚴にして本人にして苟も正に向ひ邪を改むるの精神がなかつたならば勢して功なきものである、今や我々は此稀有の大失態を演じ社會に對して實に面目がない次第である、吾人が今後社會に對して面目を立つる方法は只一つある、夫は云ふ迄もなく各自が身を修め行を謹み、舉つて校風の改善發揮に努める事である云々と一時間餘の訓話があつた

○廿六日には朝から守屋縣視學が來校せられ今回の事件に就て色々取調べられたが校長の希望に應じ午前十一時から職員生徒を講堂に集めて一場の訓話をされた、縣視學は先づ少時は血氣未定まらず之を戒むる色にあり、壯時は血氣方に剛なり之を戒むる調にありと云ふ論語の句を引いて少年の時を心移り易く氣變じ易い所謂人生の危機であるから各自自己を省察點檢し師長の教訓に遵て正直に就かねばならぬ、青年の時は須らく元氣旺盛なるべし特に山林を相手に仕事を仕様とする諸君は身体鐵の如く、岩とも取り組むやうな意氣が必要である努、惰弱に流れるな山林學校は昨秋落成式を舉げた許で之より漸く發展の機運に向はんとして居る然るに今回の如き事があれば大に其發展を阻止する事になる、ごうか職員生徒一同團結して此耻辱を雪ぎ日本に唯一つの山林學校をして美名を揚げ益々校風の發揚に努められん事を希望すると深甚なる感動を興へられた

○三月三日午後一時より生徒の父兄及保證人を學校に召集して懇談會を催した、勿論之は今回の件に關聯して生徒の監督方を父兄保證人に於て一層注意し又學校と協力して過を未然に防がしめんとするに外ならぬ此日父兄(通學生)保證人(寄宿生)の集るもの三十八人、先づ生徒父兄保證人職員の順序にて講堂に着席安藤校長立ちまして先づ父兄保證人に對し今回の事件に就き不尠配慮を蒙りたるを謝し責任の歸する所は自分一個にありと述べられ後學校の取るべき方針を演べ就ては父兄保證人に於ても學校の意を体して一層監督注意を周密にされ内外相俟つて生徒の訓育を全うし校風改善の實を挙げたしとの希望演説をなし更に生徒に向ては先日訓話の要點を繰返され今日父兄保證人懇談會を催すに至りし理由も亦諸子の益々自發自奮の意を強むるにあり吾輩の理想は不良の生徒をして一人たりとも輩出せしめざるにあり諸子各々努めよとて降壇せらる、夫より父兄保證人及職員一同一室に會し生徒の義方等につき夫々懇談を遂げ夕刻散會せり

○今回の事件新聞に現はる、や卒業生諸君其他關係者より深甚の憂慮を賜はり早速見舞狀を寄せられし向あり特に在縣廳、高橋久保田兩君よりは一篇の文を投稿せらる感謝の至に堪へず此記事を終るに際し謹て感謝の意を表す

警程 一千日 (一) 在佛部 會 山 子 感あり稽程一千日に亘り稽程一千日を草せんと思ふ意の存する處を御判續あらんを乞ふ

○頃日耳朶を叩くもの曰く母校の放火事件曰く後進十餘名の處分曰く何し之れ社會の罪か、教育方法の罪か、將又常軌を逸したる痴漢なりしに依るか、其一に依るか其二三を併せたるに依るか、何れにしても吾々迄肩身の狹まらざるを得ざるなり、茲に於てか痛切に職に教育の任にある各位の責任一層重大なるを思はしめ御苦勞の段御同情に堪へざるなり、而して吾人をして又一舉手一投足の微も忽にすべきに非ざるを悟らしむ

○職業教育の盲風は洋の東西を吹き荒むとか德育の發達は萬里同風日に非なりと聞く我、日々其高德を嘆美せる今の世稀に見る良校長安藤先生の時代に於て此不吉の出来事を耳にするに於ては他や又謂ふを須ひず只管我帝國の將來を思ひ浮べて感慨轉た無量なり

○荒療治も時に取りては必要なり適切なる措置なるを歡ぶものなり

○近頃來遊せる一奈良縣技師が信州は山岳國にして林業國にあらずと云ふ實に穿ち得たる銘言なり只一度「熊の平」の墜道を出でて上州の地に入らんか直ちに赤松の平坦林に着目す其作業たる巧妙にして徑二寸五六分長さ七八尺の間伐材を垂木として我が市へ輸入し來る吾人何の顔ありてか赤松林に見んや御互に研究致し度ものなり

○母校の國立問題漸く其聲大なり松岡縣議を首の大井議長其他の各位に向て感謝せざるを得ず其成ると成らざるは要と時と金との問題なり例令成らずとも吾人たるもの社會より其存在を認められたるに依るべきを思へば以て溜飲を下げる事幾尺一嗚呼幸來れよ我母校!!

○上野の鐘は古來幽寂の標的なり近日大正博覽會の用務を帯びて櫻木町の寺院に寄寓す雨の夜陰の閑靜さ想ひの幾倍なり上野の社は幾十年の間幾百万人の口に膾炙せられし所なり近日煙煤を被りて老樹殆ど死滅せんとす近くは北米合衆國の地質的滅亡五十年以内にありと豫言せる學者ロング氏あり歴史は繰り返すと云ふ文明は遂に文明人の左右し得べきものにあらざると茲に於て林業家は忠良なる臣民として又愛國の念最も強固なるものとして吾人は最高の誇りを有す (三月五日縣廳にて草す)

長野便り

○少雪緩寒に冬去り春風一度吹きて陽春來る春は一年に於る元氣旺盛の時機、人の氣自ら浮き立つの期節なり、善光寺參詣の團體ぼつ／＼押掛け來る、之より佛都も般賑盛況を呈すべし

○青年は人生の春なり、豈元氣旺盛ならざるべけんや、青年の元氣は實に其生命なり豈之を重んぜざるべけんや

○野球を打つ者、擊劍を勵む者、弓を弾くもの、テニスを爲す者を見れば人之元氣よしと云ふ誠に善き元氣也、大に振はざるべからず

○暴食する者、疊疊を揚げて我鳴る者、矢鏢に鐵拳を振ふる者、煙草を喫し、酒を飲みて騒ぐ者を觀れば凡人之をも亦元氣よしと云ふ、誤謬も甚之と謂ふべし、斯る事が青年の元氣ならば前途望多き青年も車夫馬丁と相離ること遠からず

○熱心に書を讀む者、學事を研究する者、實習に力を盡す者、妄欲を抑制する者を瞻ては凡人之を元氣と云はず却て元氣なしと做す、何ぞ誤れるの甚しきや書物の耽讀、學事の研究、實習の精勵、邪欲の抑制は並み大抵の元氣にては爲し難し充滿せる眞の元氣、隱然勢力をなすの元氣に馮らすんば何よりよく成すを得んや、高尚にして而も精力を要すること彼の劍を撃つ者、野球を打つ者よりも遙かに上なり此元氣こそ青年學生の力を盡すべき元氣なれ

○余は青年元氣の出し處に就き自ら思ひて己が戒となさんとす、青年の元氣をして彼の疊聲故なくして我鳴り、無闇に暴食するが如きの街氣、煙草を口にし緑酒を飲むが如きの眩氣とならしめず擊劍、テニスに熱するが如きの元氣、樹蔭に良書を繕き、校友會の如き演壇上に立ちては聽者を感動せしむるが如きの眞の元氣たらしめん事之也

○世間には英雄豪傑は酒を鯨飲し色を好めりなごうら邊りの雜誌にでも見ゆれば直ちに酒を飲み性を恣にして英雄豪傑を氣取らんとする馬鹿者あり、英雄にも斯かる情緒ありしと云ふ意なるを誤り取りて酒を飲み性を妄にすれば英雄たり得と早飲込すの連中誠に危い哉

柔佛王國 於古川家林業部馬來半島柔佛出報所 木下生 馬來半島に於て日本人の護謨栽培事業を經營しつゝある土地の多くは海峽殖民地でもなく馬來聯邦州でもなき新嘉坡の對岸ジョホール王國を以て最とする同王國に於ける該事業は數年に目覺しい發展をなし其拂下面積は約拾萬英反に垂んとして居つて同王國に於ける護謨栽培地全體の約三分の一を占めて居るとのことである、斯の如く日本人の多數が好て投資經營しつゝある柔佛王國は如何なる國であるか次に當地日本人栽培業者協會々報に記載せられたところを録して御參考に供したいと思ふ

の四千八百八十七呎となす 海流、洲は河川に富み其主なるものはパハン州との國境を流る、ユントウ河及び洲の東南端に灌ぎヨホール河(日本人のゴム栽培は此河の沿岸に最も多し)オールト海峽に流入するスタグ河西南端に位置するブライ河及びマラッカ海峽に注ぐバトバ、河並にマア河等あり西岸に於ける河流は其河口に於て大概淺瀬なるも滿潮時を以て吃水十呎までの船舶を航し得べし 都市、州の主府はジョホールバル(新柔佛)にしてオールト海峽にソレルタン(國王)は茲に住居せらるる人口九千三百五十八人あり之に次ぐは西岸のバンダラマハラにしてマア河の河口に位し人口四千九百六十六人ありバトバは人口三千九百九十九人にして近年著しい發展を遂げたり其地幾多の小村落あるも住民僅し都市と見るべきは前記の三市なり

邦州に接続し其長さ百二十哩あり尙一哩のオールト海峽を横切り(連結船による)新嘉坡横斷鐵道に接続せり該鐵道は數年間に到底資金の廻収をなし能はざるべきも河川の交通を欠ける州内に存する富饒の土地を開拓するに著しき効果あるや必せり

四、財 政 千九百十一年に於ける歳入は三百九十五萬四千九百〇一弗十二仙にして歳入豫算額なる三百十八萬七千七百九十四弗に對し七十七萬三千〇七弗十二仙の歳入超過にして前年度に比し六拾三萬七千七百六十二仙の増加を示せり如斯歳入の増加は收稅法及行政法の改善並にゴム栽培業の發達に依るものなり、而して同年度に於ける主なる税目(予算額及實際收入額各項につき記載しあれども略す)は地稅、開稅、專賣及び賭博、訴訟及印紙、郵便、港灣稅、鐵道、利子、雜收入市收入、土地拂下の十一項にして就中專賣及賭博の收入最も多し其實際收入額貳百五拾壹萬七千六百五十五弗にして全年度に於ける歳入の約三分の二を占め(ジョホールバルには公開の賭博場ありて甚だ盛なり)柔佛州唯一の財源をなせり

一、農 業 護謨、農地の精確なる統計は目下詳ならずるも護謨栽培を行ふもの其大部分を占むるは事實なり殊に吾人の注意に價するはエルカム氏(總顧問官代理)「千九百拾一年のジョホール」中左の記事なりとす 一、農 業 護謨、農地の精確なる統計は目下詳ならずるも護謨栽培を行ふもの其大部分を占むるは事實なり殊に吾人の注意に價するはエルカム氏(總顧問官代理)「千九百拾一年のジョホール」中左の記事なりとす

次發達の見込あり(第六以下省略)

備考 前記事中の數字は特に年度記載
調査に係るものなり(二月二十四日稿)

通信文欄へ

久々にて臺灣より御伺
愈々御隆盛奉賀候一度折りあらば此懐しき
母校を訪ひ校門にでも口吻すべくとは内地
時代の希望なりしも素寒貧の常として思ふ
ことも果さず遂々嶋流しに相成り候は誠に
残念骨隨に徹すども申度候
而し幸にも此頃新築記念號の御惠送に預り
久し振りとて申さうが第一回の先輩諸兄
扱ては同期の諸兄續いて第二第三回の諸兄
の幼な顔を拜見し特に諸先生方の御尊顔を
拜するを得候は實以て新築記念の賜と拜謝
する處に候只憾に思ふは口を利いて下さ
らぬのが千萬遺憾とする所に候余り無理な
要求かは存せず候へ共これも戀憐の余瀝と
御察し被下度願上候
扱て本嶋へは未だ卒業生の御尊來を受けぬ
ことは残念なるもこれとて致方なきことに
候へば一人ぼつふにてこつこつと山廻りを
致居候就では余り詳細とは參らり候も聊か
臺灣の状況御通知致度候に付余白を利用し
御登載あらは幸甚と存候
臺灣は暑いとは何誰でも御仰ることながら
全く暑い處に候只今の陽氣で夏服で充分局

て内業する時など到底も上衣は着て居れぬ
仕末夏の暑さは御推斷あらま欲しく候但し
小生等の様な貧乏人間には持て来いと保證
出來候は冬も浴衣夏も單衣綿の御厄介には
なり兼ねる處に有之候へびなり然し蚊帳の
御用は年柄年中盡きぬとはちとなさげなく
存候と申しても植付は矢張り夏に限られ
候間黒色人種と疑はれ候様になり申候こと
は常に有之候即ち臺中を限り南は八九月よ
り十月迄雨季北は一月より四月迄は雨季と
なり居り候爲あまり雨季を利用することと
相成候爲に候

全島各地(蕃地は例外)には内地人參り込み
居る様に傳へられ候も中々左様なこと無之
まあ海岸地方の平野と限られると申しても
差支無之候然し巡查は格別に有之候其等は
樟腦製造家位のものに有之候

私共の商賣は御同様の通りなれば山の中へ
入り込み言語も通せず困難すること澤山有
之候にまげに土人の家は建方か違ふ食物か
違ふ臭虫に襲撃せられる實に言語同斷に有
之候

物價は内地の五割高に有之候それも其筈臺
北市内の建物の如きはとも東京市内にて
も見る能はざる宏大の建物櫛比し地價は高
し加之船で内地から來る仕末勢ひ高くなる
は理の當然丸で商人のために家を造つてあ
る様な譯に候

林政の系統は民政部に殖産局を置き其下に

林務課を置き傍ら林業試験場を各地に設置
し豫算を廳に配付し廳をして實務に當らし
め課では之が萬事の監督を司る仕組に候專
賣局は樟腦(腦務課)阿里山作業所は材木と
云ふ譯で何れも獨立し三社鼎立の姿に有之
候林野調査でも濟めは林務は大に有望なら
んと存候

本嶋人に關し且つは生蕃に關しては大に參
考になること多々有之候へ共これ等は不月
書籍を差上げ候間御覽被下候様願上候
尙種々申上度こと有之候へ共何れは印刷物
にて致度實は施業按を組むので少々閉口致
居り候多右の次第と御承知被下度候

寄贈品

左記物品書目、學校宛寄贈せられたり茲に
謹て謝意を表す

- 一、林投、銀合歡の調査に就て 冊
- 一、古々椰子の殖育 冊
- 一、臺灣總督府林務課大股又衛氏より寄贈 冊
- 一、斑石、標本一箱及説明書 冊
- 一、右茨城縣太田小林區署校勤林省三氏より寄贈 冊
- 一、材鑑標本一箱(六十一種) 冊
- 一、右福島縣相馬郡石平村官行所代所在勤原田 冊
- 一、義治氏より寄贈 冊
- 一、故下畑徳重君吊慰金領收報告 冊
- 一、金五拾錢也 冊
- 一、金五拾錢也 冊
- 一、金五拾錢也 冊
- 一、計壹圓五拾錢也 冊
- 一、計壹圓五拾錢也 冊
- 一、右の通り相違無之候 冊
- 一、校友會費領收報告 冊
- 一、加藤純 冊
- 一、大脇又 冊
- 一、衛君 冊